

ひまわり

No.328号

心地よい風に吹かれて

家族を失った悲しみは、時と共に癒えても、もう会えないという寂しさは、時間が経っても変わらないように思います。寂しくなった時、故人との思い出は、今を生きる家族の心の支えや慰めになるのでしょうか。

病気だと分かった時から、本人だけでなく、家族にとっても、何かが大きく変わってしまう。当たり前だった日常が、そうではないと気付くからこそ、何気ない日常の出来事や目に映る風景が、強く印象に残るのかもしれませんが。そんなことを、ある夫婦の出来事を通して考えてみます。（※登場人物は仮名）

治療法がまだ確立されてない病気だと知らされた時は、予期せぬ出来事に夫婦二人とも愕然として、生きる希望もすっかり失ってしまった。美津子は、良平の病気が分かってからというもの、辛い気持ちに負けそうになると、「強くならなきゃ」と何度も自分を奮い立たせてきた。それは、自分まで駄目になってしまったら、良平の看病なんて出来ないと思っていたからだ。

良平は、病気の治療を受け始めてから、三年目の春を迎えていた。新しい抗がん剤が奏功したおかげで、良平の体力は、自分でも驚くほど回復していた。死への恐怖にさいなまれながらも、体力をつけるために積極的に運動もするようになっていた。自分では体が悪い気がしなかったのも、このまま病気が治るんじゃないかという希望を抱く日もあった。しかし、病気自体は進行しているようだった。

治る病気ではないという現実を再び突き付けられたのは、頼りにしていた2種類目の抗がん剤が効かなくなって、これからは病気の症状を抑える治療に変わるという説明を受けた時だった。主治医からの説明にショックを受けた良平は、ひどく気分が落ち込んで、寝込んでしまう日が増えていた。美津子は、悲しみに暮れている良平の姿を見るのが、辛くてたまらなかった。それでも何とか気分転換しなくてはと、思い切って良平を海まで誘い出した。

良平は今日、本当に久しぶりに海に来ていた。美津子に誘われなければ、ここまで来る勇気はなかった。駐車場に車を止め、二人は遊歩道を歩き始めた。海が近づくにつれて、潮の香りが強くなってきた。「もうそこまで行けば海が見える。」良平の歩みが、少しずつ強くなってきたのを美津子は感じていた。少し先を歩く良平を追いかけながら、美津子は「連れて来て良かった」と思った。



【続きは次のページへ】

視界が少しずつ明るくなってきた。何とか自分の足だけで歩き、良平はようやく海岸へたどり着いた。目の前に広がる青い海を見て、良平の心はすっかり晴れやかになった。ずいぶん長い時間、じっと立ったまま海を眺めていた。しばらくして、疲れを感じた良平は、すぐそばの東屋に腰をおろし、美津子の膝枕でひと休みした。二人は会話を交すことなく、心地よい風に吹かれながら、じっと海を眺めていた。そして良平はふと、こう口にした。「このまま逝きたい…」良平の意外な言葉が、いつまでも美津子の心に残った。(事務長 岡村 和久)

ーあとがきー

この話は、私の両親の体験をもとにしています。母は当初、入院先のホスピス病棟へ移ることを考えていたようですが、家に帰りたいと父が口にしたことで考えを変え、最期は自宅で父を看取りました。往診してくれる医師に出会えたことは、幸いだったと私は思っています。父と話が出来ない寂しさを感じる時がありますが、「よう頑張ったね、親父」と感謝することで、少し心が安らぎます。



世界ホスピス・緩和ケアデー

イベント開催

緩和ケアデー10月14日(土)・イベント10月29日(日) 仙台市

毎年10月の第2土曜日は、世界ホスピス・緩和ケアデーです。当院では、2017年から、緩和ケア啓発のための取り組みとして、在宅ホスピスを語る会やポスター発表、ホスピスのための音楽会など、毎年様々なイベントを企画しています。

今年のイベントは、日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会2日目の10月29日仙台市戦災復興記念館にて開催します。全国の皆さまと現地でお会いできるのを楽しみにしています。

WHO[世界保健機関]緩和ケアの定義より

緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者さんとご家族のQOLを痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し、的確に評価を行い対処することによって、苦痛を予防し和らげ、改善させるアプローチです。



今年のテーマは

「思いやりのあるコミュニティ
緩和ケアを共に考える」

世界ホスピス緩和ケアデーイベント

10/29(日) 9:30 仙台市戦災復興記念館 4階第2会議室(第7会場)

- ・「コンパッション・コミュニティ：インドケララ州の実践」
オレンジホームケアクリニック MSW 西出 真悟
- ・「徳之島緩和ケアプロジェクト」
やまと在宅診療所 登米 院長
東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野 田上 恵太
- ・「バングラデシュと共に歩んだ30年+アフリカ・ウガンダから」
国際ホスピス・在宅ケア研究所 ニノ坂 保喜



小さなたねだよ！

今年も8月後半の約1週間、
夏祭りWEEKを開催しました。
今年は、スイカ割り、ビンゴゲーム
盆踊りの3本柱でした。
みんなで楽しみました！



夏祭りポスター協会
実行委員長です！



スイカ割り！
ヨイショ！



建史先生も～！
ヨイショ！



盆踊り？盆ダンス？



理事長夫妻による
オカリナ演奏♪♪



ビンゴゲームの
ルーレット中です！

BINGO!!



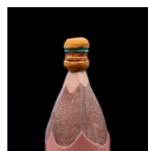
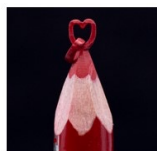
景品でスイカが
当たりました～！

小さなたね利用者の写真掲載にあたっては、同意書を取り交わしています。

ひらたそうし展開催のおしらせ えんぴつ彫刻の小さな世界 in にのさかクリニック

展示期間：11月13日(月)～25日(土)

えんぴつ彫刻家で、“書く”という仕事を終えた鉛筆たちに、新たな命を吹き込む職人
ひらたそうしさん(訪問看護ステーションそうしーず代表)の作品を当院で展示します。
11月18日(土)には、彫刻の実演も予定していますので、鉛筆が作品になる瞬間をお楽
しみください！そうしーず在籍カメラマン惣門さんの作品も数展展示する予定です。



えんぴつ彫刻とは、鉛筆の芯2mm～3mmの部分や木の部分を中心にカッターナイフ等で造形するアート。
簡単な物は30分程度、難易度が高いものは30時間程度かかるものもある。

●作家プロフィール

ひらたそうし(soHsHi hiRatA)／1984年、北海道生まれ大分育ち。
幼少期より絵を描く事や物創りが好きで独学で始める。2010年頃、えんぴつ
彫刻と出会い、使い古しの鉛筆を使い見様見真似で始める。以降、えんぴつ
彫刻の魅力に取り憑かれ、作業療法士として働く傍ら“書くという仕事を終え
た、えんぴつ達に新たな命を吹き込むえんぴつ彫刻家”として活動をしている。
2023年4月より訪問看護ステーションそうしーずを立ち上げ、医療福祉×エ
ンターテインメントをキャッチコピーに活動の幅を広げている。



Event 催し物・イベントのご案内



ともてらす早良
祝 2周年
11/3(金) 祝 4(土) 5(日)
開館2周年
イベント開催!!

ご家族・知人・友人をお誘いの上
ぜひ楽しいひとときをお過ごしください!

詳しくはこちらを
ご覧ください➡

同時開催
ともてらす
マルシェ



<問い合わせ・申し込み先>
福岡市早良南地域交流センター
ともてらす早良 電話:092-812-3312
福岡市早良区四箇田団地9番1号

11月3日(金・祝) 2階多目的ホール
要事前申込・無料・全席自由

- 10:00~10:50
・演奏会 ギターとオカリナ演奏
○山の音楽家Shana ○二ノ坂保喜
- 11:00~12:00
・講演「いのちを受けとめるまちづくり」
○二ノ坂保喜
- 13:30~15:00
・在宅ホスピスを語る会
自宅でご家族を看取った方と在宅医療を
サポートした医療者が対話します

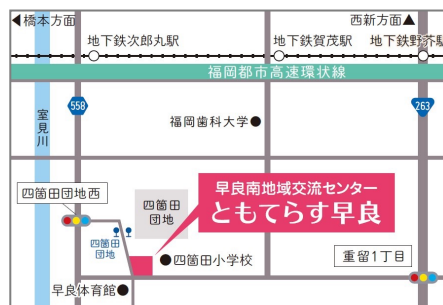
11月4日(土) 2階多目的ホール
要事前申込・無料・全席自由

- 10:00~11:00
・バングラデシュと手をつなぐ会 35年の歩み
○二ノ坂保喜 ○ラフマン・モクレスールさん
- 11:15~12:00
・講演「イスラム教と共に生きるとは」
○ラフィクル・イスラム・マルフさん
- 12:30~14:00 ※2階大会議室 要事前申込・無料
整理券配布・限定30名
・文化紹介 バングラデシュカレーとチャの体験
・お話し「イスラム教との出会い」
○アマー美穂さん

11月5日(日) 2階多目的ホール
要事前申込・全席自由・入場料500円・定員300名

- 15:00~16:30
・講演「共に生きるとは何か
～難民の声、家族の歴史から考えた多様性～」
○フォトジャーナリスト 安田菜津紀さん

11月1日~29日の期間中、1階の展示スペース・市民ギャラリーで、
それぞれの活動を紹介する写真や資料等の展示をしています。



		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00	午前	外来診療		訪問診療	外来診療		
13:00		昼休み	健康教室		昼休み	休診	
14:00	午後	訪問診療			訪問診療		
17~18:00		※外来診療			※外来診療		

※ 午後5:00~6:00の外来診療は、訪問診療の都合により診療開始時間が遅れる場合や診療ができないことがあります。診療をご希望の方は、事前にお電話いただくと幸いです。